

朝日新聞デジタル > 記事

野良猫2千匹超不妊手術へ どうぶつ基金と宮崎ねこの会

佐藤修史 2021年4月1日 10時00分

シェア ツイート B!ブックマーク メール 印刷



不妊手術を待つ野良猫を管理する「宮崎ねこの会」のメンバーら=2021年2月15日、宮崎県国富町

公益財団法人どうぶつ基金（兵庫県 芦屋市）と市民団体「宮崎ねこの会」（事務局・宮崎市）は今年度、宮崎県内で2千匹超の野良猫の不妊去勢手術に乗り出す。基金が獣医師を派遣し、手術費用を助成。同会が野良猫の捕獲や運搬などの実務を担い、毎月200匹の手術をめざす。（佐藤修史）

猫の繁殖力は強く、野良猫を放置すれば瞬く間に増殖する。保健所で殺処分される場合もある。

どうぶつ基金は、野良猫の繁殖を抑えるため、捕獲（Trap）し、不妊去勢手術（Neuter）をし、元の場所に戻す（Return）「TNR活動」を全国で進めている。「TNRで数が減るのは統計上明らか。少しでも早く取り組んだ方がいい」としている。

手術をした猫には、耳先にV字の切り込みを入れ、手術をしていない猫と見分けがつく。繁殖しなくなるだけでなく、大きな声で鳴くなどの発情行動や猫同士のけんかも減るといふ。

基金は今回、「地域集中プロジェクト」の1つとして、①TNRのボランティアの態勢が整っている②協力する動物病院が少ない——などの状況から、宮崎、大阪、福岡を選定した。3府県で計7200匹の手術をめざす。

宮崎では、「宮崎ねこの会」が中心的な実務を担う。基金に登録している宮崎、日向、日南3市からの要請に応じるほか、会のメンバーや他のボランティアの要望も聞き、TNRをする。多頭飼育崩壊の救援もする。

手術の拠点は、国富町に新設された「どうぶつ基金病院」。獣医師は常駐せず、月に4日ほど、県外から出張手術に来る。前日に捕獲された猫を一斉に手術し、翌日に捕獲した場所で放す。1日あたり数十匹を手術し、1カ月の目標を200匹超とする。

宮崎ねこの会は昨春に発足し、これまでに1千匹超の手術をしてきた。会員数は500人を超すが、TNRに参加できるのは20人程度という。今回のプロジェクトの目標数は、昨年度の実績のほぼ倍にあたる。

山本清美代表は「野良猫が増えて住民の苦情が出る前に手術をするのが大事。無料で多くの猫に手術をできるのはありがたい。会員同士で協力して目標を達成したい」と話している。



どうぶつ基金のプロジェクトで野良猫の手術を担う獣医師は山口武雄さん（73）。神奈川県を拠点に全国を飛び回り、年に5千匹の野良猫の不妊去勢手術をしている。手術は素早く、安価で、宮崎ねこの会の代表、山本清美さんは「TNRの神様」と呼ぶ。

三十数年前、首都圏の動物愛護団体の求めで出張手術を始めた。高原町のNPO法人「咲桃虎（さくもんと）」など県内の団体とも連携し、TNR活動を支えてきた。

出張先では早朝から手術台に向かい、熟練の「神の手」でメスや糸を流れるように操る。雄なら2分、雌でも10分の早業。多い日には100匹超を手がける。

一般に1匹1万～3万円程度とされる手術代を3500円で引き受ける。山口さんは「ボランティアこそ『神』。彼らは頑張れば頑張るほど足が出る。私は手術すればするほど儲（もう）かってしまう」。ボランティアの熱意に応えようと、手術代を極限まで下げたという。

離島にも海外にも出向いてきた。雲仙普賢岳噴火、阪神大震災、東日本大震災などの被災地に入り、猫の救援活動もした。「殺処分ゼロに向け、頼まれた仕事は極力断らないことにしています」（佐藤修史）